

寺婦のひろば



寺婦研修会での一コマ 講師：徳川眞英先生

冬空に思う

山陰教区教務所長 野村宗雄

山陰教区寺族婦人会の皆さま、昨秋に教務所長に赴任してまいりました。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。

今冬は例年になく雪が多いということですが、お寺、ご門徒の皆さまは大丈夫でしたでしょうか。慣れたこととはいえ、積もるたびの雪かきのご苦労は本当に大変なものと存じます。

私は太平洋側の岐阜の生まれですが、学生時代は北陸地方で過ごしましたので、こちらのような天気での生活は経験していません。しかし長年京都で暮らしたせいか約三十年ぶりに味わう気候になかなか手こずりました。この冬は出無精気味でありました。運動不足の解消と始めた宍道湖半のジョギングもまったく怠けてきたことです。いつ晴れるか分からない空のせいにして。

ほんとうに、こちら日本海側の冬空は大体どんよりとして、たまに晴れたと思ったりいつの間にか雨に、雨だと思っていたらみぞれや雪、たまにあらが降ったりゴロゴロつと雷も鳴つ

て、ころころと変わります。

さて、同じようにころころと変わるものがありますが、それは何かといえば、移り気な私どもの心です。「コロコロ変わるからこころ」と聞いたことがありますが、そうした気まぐれな空と私どもの心をあてにならないものとうたわれた詩がありました。「ソラゴトタワゴトと私を知らせてくださるる」と。

そんな冬の季節もまもなく幕を閉じ、春はためらいながらももうそこに来ています。雪国の人にとつては、いつそう春が待ち遠しく、春が来たときの喜びは大きいと言われた方がいらつしやいました。今年はその春の四月からいよいよ親鸞聖人七百五十回大遠忌法要がご本山でおつとまりになります。

宗祖聖人は私どもに本當にあてになるのはころころ変わるわが心ではなく、ただお念仏ひとつと明らかにしてくださいました。ご法要には皆さま方もご参拝されると存じます。ともどもに大きな喜びのご縁となりますよう念ひあげます。

寺族婦人研修会だより

寺族婦人研修会に参加して

坊守の存在を強く認識して

川本組法隆寺 岩 墨

昨年九月十日に寺族婦人研修会が当山を会所に開催されました。まだ、残暑が厳しい時期ではありましたが、遠路、多くの皆様において頂き感謝しております。我が家の隣は娘達に通う小学校ですが、研修会当日は多くの先生方から「今日は何かあるの」と声を掛けてもらったようです。

午前午後には渡つての研修では、ご講師の徳川眞英先生より、「宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌法要について」と題してご講話を頂き、いづれご同行とともに勤めできるようにと、宗祖讃仰作法を丁寧にご指導して頂きました。私自身は初め

と一緒に宗祖讃仰作法を勤めさせて頂く貴重な機会となりました。

閉会式では当山住職が挨拶としてご開山聖人が恵信尼公様を妻となさって以来の坊守の存在が私たち浄土真宗の強さだと申しました。おいでになった坊守様方を見習って、その強さに少しでも貢献していきたいという努めていきたいと感じました。最後になりましたが、ご講師様、ご参加くださった皆様、お世話になった関係の皆様方に深く感謝申し上げます。

共に学び教えにふれる喜びを!

福屋組清岸寺 服部 次恵

九月十日、私にとっては久しぶりの寺族婦人研修会への参

加で、楽しみに参りました。普段勤めに出ていますと、いくらかお寺の環境から遠ざかることがあり、お寺での研修や坊守様方とお会いしてお話できることは、どこか心新たに感じるところです。

さて、この度の研修は「宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌法要について」ということで、宗祖讃仰作法の練習をさせていだきました。講師の徳川眞英先生にはわかりやすくご指導いただきました。CDに合わせ一緒に声を出すと、法要が近づいてきたのだなという期待感と何か感動を覚えるようにしました。

知人から「お寺に行くとか何か優しい気持ちになれるよね」と聞かせてもらうことがありますが、仏前に座ると、何か自分をふり返り見直すことができると、親鸞聖人の教えにふれ、多くの方に阿弥陀さまのお慈

悲につつまれていられる喜びを感じていただきたいと思います。また、仏綱綱領に「世界はみな同朋きょうだい」とありますが、この教えを感じとることができるのでは、と思います。

私は今、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に多くの門徒の皆様と参拝し、共感できることとたくさんの方とのご縁を楽しみにしております。

当日お世話いただいた皆様へ感謝申し上げます。有意義な一日を過ごせたことをお礼申し上げます。



坊守からの通信

私へのお念仏リレー

出雲組妙寿寺 山崎 章子

昨年四月に継職法要を勤め、法灯を若い二人にバトンタッチ致しました。多くの方々にお育て頂きながら、無事に次の世代へお念仏のバトンを渡せた事は、大きな喜びであり今日まで私どもを支え続けて下さった方々に感謝の思いでいっぱいでございます。

振返って見ますと、『お念仏を喜ばせてもらえ、お念仏を喜ぶことができたなら、なんにもできん坊守でも坊守は務まる、合掌だからな、お念仏を忘れるなよ。』と、立善寺の祖母の驢の言葉に送られ、嫁いで三十八年、今、祖母の言葉に頷くことのできる私でございます。又、坊守職を名実とも引き継ぐにあたって義母から、『お同行ひとり育てるつもりでやりなさい。ひとりお同行が育ったら、あんた達の教化活動は大成功、教化活動は人のためにするのではないか

らね、私自身のためにも思っやりなさい。』と言ひ聞かされた。本当にそのとおり、私が一番お育てにあつたと思うことでございます。祖母、義母そして私へと繋がるお念仏……。香善寺の母は『有難いねー。如来様のお手回し、如来様のお手回し、勿体ないねー』と、言っはお念仏するのが口癖でしたが、その母の思いを実感できるようなりました。本当に勿体ないことでございます。総てが私をお念仏へと導く如来様のお手回しでありました。ただただありがとうでございますの一言でございます。



合掌

「坊守さん」になる日

出雲組妙寿寺 山崎 花子

早いもので、妙寿寺へ嫁いで五年になろうとしています。お寺での生活を全く想像出来ていなかった五年前の自分から、「坊守さん」と呼ばれる様になつた今の自分は、一体どう見えるのでしょうか。「頑張ってるね」と言ってもらえるでしょうか。

平成二十二年四月、妙寿寺では親鸞聖人七百五十回大遠忌十周年法要、仏壯五十周年法要、そして、住職継職法要を、無事お勤めする事が出来ました。「若院さんは『住職』さん、若坊守さんは『坊守』さんですな」と、沢山の方にお祝いして頂きました。

法要の準備をして行く日々の中ふと、「坊守さん」とは「なる」ものなのだろうか、と感じていました。やがて法要が近づくとつれ、お忙しい中ご尽力下さる沢山のご門徒さんの姿を見ているうちに、「ああ、『坊守』という肩書きを、ご門徒さんからお預かりさせて頂くのだなあ」という思いに至りました。

法要当日も、表に裏に走り回って下さるご門徒さん、ご出勤賜つた御院家様方、親戚の皆様、郷の家族。なんと大勢の人たちに支えて頂いているのだろう。ここに新しい「坊守さん」として立たせて頂く事の有難さを感じしみじみ実感しました。

まだまだ未熟で、沢山の方々のお力添え無しには到底「坊守さん」ではいられない自分ですが、いつか「坊守さん」という呼び名が似合う様になる日が来るまで、皆さんの背中を追いかけて進んで行こうと思ひます。



平成二十一年度 寺族若婦人研修会に参加して

浜田組真行寺 渡辺 美紀

三月十五日、大家組願林寺様にて行われた若婦人研修会に参加しました。

会場となった願林寺は、天正年間（一五七三〜九二）に建てられたという歴史のあるお寺だそうで、小径を登り最初に目に入る、大きく、立派な鐘楼門が印象的でした。

本堂に入りますと、机に一人ずつ、手作りのかわいい小箱が置いてありました。何だろう、と早速わくわく。中にはお菓子が入っていて、素敵な演出に心が和みました。



この日は、午前中はそば打ち、午後からご講話という日程で、そば打ちでは、皆で各作業に分かれこねたりのぼしたり、いろいろな体験をさせていただきました。和気あいあいとした雰囲気、初めて参加した私も楽しく過ごすことができました。

またおそばの先生には、丁寧に指導していただいた上に、多数人数分のそば作りと、大変お世話になりました。できたおそばは、とてもおいしく、二杯半もいただきました。午後、「お寺に住まわせていただいて」という講



題で、荒本由未先生のおはなしを聴聞させていただきました。日々いろいろと悩むこともありますので、先生のおはなしに、温かい優しさと、勇気をいただき、また気持ちを新たにすることができました。最後に、願林寺様、大家組の皆様、ご準備や、冷たい雨の中での出迎えからおそばのご用意等、本当にお世話になりました。

おかげ様で、有り難い一日を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

合掌

編集後記



▽昨年の夏の暑さは、とても厳しく、この暑さがいつまで続くのかと思っておりましたが、秋風が吹きはじめたと思ったら、急に冷え込んで来たせいでしょうか、紅葉がとっても美しく、長く楽しませて頂きました。そして年末年始の思いがけない大雪で、皆様の所はどうなんだろうかと案じながら日々を過ごしておりますが、もし被害にあわれた方には御見舞い申し上げます。こんなに寒く冷たい中で凛として咲く梅の花、スイセンの花の香に心なごむ思いがいたします。外に出て上を見上げると、もう桜の蕾がいっぱい、：院家さん今年も咲いてくれますよと語りかけながら満開の時を待ちたいと思えます。『世の中 安穩なれ』を大遠忌入口ーガンに待ちに待った 親鸞聖人七百五十回忌法要が、いよいよ今年四月から始まります。そして、第十四回世界仏教婦人会大会が五月開催されます。それぞれ法要に参拝なさる方々は、待ち遠しいこと存じます。この尊い御勝縁を喜びあい、聖人様の御苦勞をしのび、命の尊さにめざめ、御本願の御心を聴聞し、お念仏の中にお育ていただいている一日、一日を生かされて、生きていくことに感謝して、聖人のみあとを歩ませて頂いている私達は、有縁の方々と共に学び、語り合い、念仏者として、おかげさまと生かされ、ありがとうございますと生き抜かせて頂きましょう。『雪の中 念仏の声 聞こえて 共によるこぶ 今朝の春』 (M・F)